

令和元年度老人保健健康増進等事業

介護保険事業計画の策定に向けた「取組と目標」の的確な評価方法に関する
調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

1. 事業実施目的

市町村及び都道府県の第8期介護保険事業(支援)計画の策定にあたっては、第7期より自立支援・重度化防止等に関する取組及びその目標に関する事項(「取組と目標」)の記載と、その実施状況及び達成状況に関する調査及び分析を行うこととされたことに伴い、従来よりもより一層、前期(第7期)の自己評価を踏まえた計画策定が求められている。また、令和元年12月に「介護保険制度の見直しに関する意見」が取りまとめられ、将来の介護保険施設等の必要定員総数等を見込む際の参考とするよう、住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の設置状況について記載するよう努めることとされた。こうした背景に鑑みて、本事業では、第7期の取組の設定や自己評価の状況や課題を整理するとともに、住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の整備状況をふまえた第8期における施設サービスへの影響の見込み方の整理を行うことを目的とした。

2. 事業の概要

(1) 第7期介護保険事業計画の「取組と目標」の自己評価結果の記載状況の分析

第7期介護保険事業計画の「取組と目標」自己評価結果について、都道府県及び管内市町村より提供協力を受け、記載内容の分類と、ストラクチャー指標・プロセス指標・アウトカム指標の設定状況を分析した。

(2) 第7期計画における施設サービスの整備の進捗状況の分析及び第8期計画における施設サービスの整備計画の検討

特定施設の指定を受けていないサービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホームの影響を踏まえた、第8期計画における施設サービスの整備計画の考え方を検討した。

3. 事業結果の概要

第7期介護保険事業計画の「取組と目標」自己評価結果について、ストラクチャー指標・プロセス指標はほぼ全ての取組で設定されており、具体的な(数値)目標を設定し、その定期的な評価に基づいてPDCAサイクルを継続的に回すことの重要性について、市町村に浸透しつつあるものと考えられる。一方で、アウトカムを意識した評価を実施している取組は少なく、取組の評価を実施状況(ストラクチャー・プロセス)及び実施効果(アウトカム)の両観点から確認し、その考察に基づいて次の取組を改善していく、というPDCAサイクルに基づいた計画策定は十分に浸透していなかったものと考えられる。これをふまえ、第8期の「取組と目標」の設定にあたり留意すべき具体的なチェックポイントをPDCAサイクルのフローの中で示すことで、「考え方」の定着に資する情報提供を目指した。

以上